



たいまつ2千本、棚田を彩る

「日本の棚田百選」に選ばれている水俣市久木野の寒川地区の棚田に17日夜、2千本のたいまつがともされた。日が落ちて暗くなった田んぼの水面を、炎が幻想的に彩った。山を切り開いて棚田をつくった先

水俣

祖に、「いまも元気に耕していません」と伝えるイベントで、今年で10回目。たいまつは竹筒に稲わらを詰め、使用済みの天ぷら油を加工したバイオディーゼルを燃料にして、環境に配慮している。(斎藤靖史)

水俣市久木野寒川地区であった「棚田のあかり」。約2千本のたいまつが棚田の水面を照らした。17日午後7時25分ごろ



棚田の灯火 水面照らす

水俣市寒川地区

水俣市久木野の寒川地区で17日夜、山あいの棚田を約2千本のたいまつで飾る「棚田のあかり」があり、見物客が炎と水が織りなす風景を楽しんだ。久木野ふるさとセンター愛林館(沢畑亨館長)と地元住民が棚田の美しさを知ってもらおうと開いており、10回目。住民やボランティアの計約80人が朝から準備し、水

が張られた棚田のあぜにたいまつを設置。午後6時半に点火されると夕闇の中、揺れる炎が棚田の水面に浮かび上がった。

点火前には地元子どもたちが「寒川棒踊り」など伝統芸能を披露したほか、熊本大の徳野貞雄教授(地域社会学)の講演などもあった。(隅川俊彦)